

漆塗・金箔

・漆塗と金箔押し【2019年4月～2021年7月 実施】

ごう てんじょう かまち

び わ いた※1 なげし※2

格天井・框の漆塗、琵琶板・長押・欄間の箔押しを行いました。

修理は古い漆面・金箔を掻き落として損傷部分を補修し、木地の漆吸い込み防止と漆の密着をよくする目的として、錆漆付けと研ぎ作業を交互に行い金箔を押しします。金箔は、箔押漆を塗り、塗った漆を均一にしてから押していきます。この工程の出来によって、金箔の輝きが決まってしまうため、熟練した職人の技が必要となります。

本修復では石川県金沢市で製造された縁付金箔を使用しました。

※1 琵琶板：組物と組物の間などに嵌め込まれている板のことです。

※2 長押：柱を水平方向につなぐもので、鴨居の上から被せたり、柱間を渡せたりするように壁に沿って取り付けられています。

※3 錆漆：生漆と地の粉(粒の粗い土)と砥の粉(粒の細かい土)を混ぜ合わせたものです。

※4 縁付金箔：縁付は400年以上前から行われている金箔の製造技術で、日本独自の伝統製法です。2020年12月に世界無形文化遺産に登録された「伝統建築工匠の技 木造建造物を受け継ぐための伝統技術」の17分野の技術の1つです。



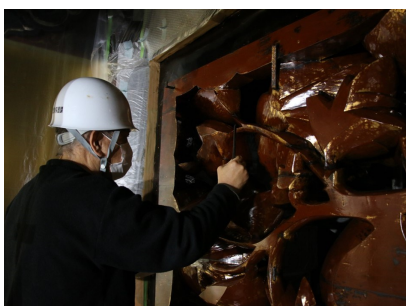
▲ 掻き落とし (外陣欄間)



▲ 漆塗 (余間格天井)



▲ 漆研ぎ (余間長押)



▲ 箔押漆塗 (外陣欄間)



▲ 箔押し (内陣丸柱)



▲ 修理完了 (外陣欄間)